

会議結果報告書

1. 会 議 名 令和6年度 第5回 印西市環境推進会議（市民会議）
2. 日 時 令和7年1月17日（金）9:30～11:30
3. 場 所 市役所 会議棟2階204会議室
4. 出席委員：白川副会長、岩井委員、川井委員、國武委員、小山委員、富川委員、橋本委員
福井委員、渡辺（統）委員

事 務 局：岡本環境保全課長、海老原保全係長、五十嵐主査、増田主査

5. 傍 聴 者 0名

6. 配布資料

- ・会議次第
- ・令和6年度版印西市環境白書（案）
- ・いんざいカーボンニュートラル・チャレンジ2050（案）
- ・いんざいカーボンニュートラル・チャレンジ2050（概要版）（案）
- ・前回会議での意見に対する回答（市民会議）
- ・ペロブスカイト太陽電池について（岩井委員より）
- ・藤代市長との懇談 グループから提案した内容（グリーンインフラグループ）
- ・印西市の谷津と谷地の生物多様性を守る条例（案）

7. 内容

（1）開 会

事務局：本日、山崎会長、村形委員からは欠席のご連絡をいただいている。代わりに議長の職を、副会長の白川委員にお願いしたい。また、渡辺壽委員から委員退任の申し出があり、委員の職を解職とさせていただいている。

（2）挨 拶

副会長：今日の議事進行を努めますので皆様ご協力よろしくお願ひいたします。先日テレビを見ていたところ、DEIという言葉が取り上げられていた。私は知らなかったが、DEIとはDiversity（ダイバーシティ）、Equity（エクイティ）、Inclusion（インクルージョン）の略称で、要するに多様性というようなことである。そういったことがアメリカの民主党政権下ではずっと進められてきた。ところが共和党時代になり、これをもう捨てていくというか、強者だけが勝っていく世界が近づいている。私も半世紀前にアメリカに行ったことがあるが、その当時から、黒人を何%採用しなきゃいけないというルールがあったが、それもおかしいということで、非常に圧倒的な強者が、お金を持っている強者が支配する世界がだんだん近づいてきていると感じる。アメリカがそう動けば、他もなラうところがあると思うので、若干環境問題とは少し離れるかもしれないが、嫌な世界になってきたなと思う。強者はやはり弱者を救っていく優しさがほしい。環境問題もそうだが、環境にやさしい、人にやさしい世界を作っていくという点でも何か共通するところがあるのかと思う。この会議も、私が参加した頃に比べると随分充実してきた感じがある。本年度の会議はこれが最後だが、来年度もまた皆様継続してやっていただけるということを前提で、ますます盛り上がっていくと良いと思っている。本日はよろしくお願ひします。

(3) 議 事

①令和5年度の環境施策の進捗状況について

—令和5年度の環境施策の進捗状況について事務局より説明—

議 長：ただいまの説明について、ご意見ご質問などがあればお願いします。

委 員：この中ではグリーンインフラについては触れられてないということで良いか。だから用語解説にも入っていないということか。

事務局：明確な形でグリーンインフラについては、今のところ触れている部分はないと思う。

委 員：印西市環境基本計画の中に市民と一緒に自然を守ろうという項目があって、環境白書（案）の中にも里山保全活動団体など書いてあるが、資料編などに、印西市にはどんな環境団体があるのかということを入れてもらった方が良いと思う。市民が見る時、おそらく庁内エコプランの進捗については、職員が頑張っているくらいしか思わない。昔は環境白書の半分が庁内エコプランについてだった。昔に比べたらページ数はかなり減ってはいるが。地球温暖化や環境保全、香料被害や煙害などいろいろな団体があるためなかなか難しいかもしれないが、ここで里山保全活動団体について書いてあるのなら、それはせめて資料編などで紹介した方が良いのではないかと思う。

事務局：ただいまのご提案については、一度預からせていただき、団体の定義や、どこまで載せていくべきなのか、検討していきたいと思う。もしかしたら今回は難しいかもしれないが。まずデータの吸い上げにかなり時間がかかると思われ、掲載する内容についても、各種団体に確認を取るような事態になるかもしれないため、この場で確定はできないが、いただいたご意見はぜひ参考にさせていただきたいと思う。

委 員：しかしここで団体数を書いているから、把握しているのではないか。団体数が増えているという点について、どこが新たに増えたのかとか、そういうことを知りたい。

事務局：確かに団体数は載っているため、団体名ぐらいまでなら良いかとは思いますが、皆様にデータとして公表するときに、例えば活動内容や、連絡先までは載せなくても良いかもしれないが、取り扱っているサイトなど、そういった情報もあったほうがより効果的かと思い、その部分で確認が必要かと考えた次第である。データとしてはぜひ載せていきたいとは思っているが、その辺の準備などが必要になってくるかと思うため、そのような形で受け取っていただけるとありがたい。

委 員：難しければ団体名だけでも良いと思う。あとは読んだ人が検索すれば良いと思う。

事務局：今ご提案いただいた団体名の掲載については、課内でも検討して参りたい。

委 員：第3章の印西市庁内エコプランの進捗状況について。第3章、46ページから60ページ。昨年度も同じような形で、全体量の15%くらいを占めている。これは毎年、市役所の方々の努力を市民に知らせて、先導するものが襟を正していますよということをおっしゃりたいのだと思うが、去年も書かれているため、少しずつ減らして、先ほど他の委員もおっしゃったように、市民に関わりがある部分を、少しずつ広げていくようにページ数を少し変えていったらどうかと思う。夏になったら半そでを着るなどのクールビズの取組などが書かれているがこれも長い。日本国民が全員知っているようなことが書いてあるので、印西市独自の、環境に対する市役所の取り組みということを、先程のお話のように、団体名を少しずつ公表した

り、このプランをすともう少し環境に対してよくなるというような話についてページを割いていった方が良くと思った。

事務局：印西市ならではの何か、お得情報ではないが、市民のお役立ち情報みたいなものを取り入れたらどうかというご意見でよろしいか。どのようなものがあるのか精査しながら、反映できるところを付け加えられればと思う。

議長：今の話について、多分印西市としてのPRをここにずっと載せてきているのだと考える。年々ボリュームは減ってきているが、今一度、もう少しここを圧縮できないか検討してほしいというご意見かとも思えた。それは引き続き努力をお願いしたい。

事務局：検討させていただきたい。

委員：今の話に繋がると思うが、特定外来生物について。後ろの資料編に少しあるが、例えばアメリカザリガニやナガエツルノゲイトウは、非常に身近なところでの問題であるため、それについてどのような状況なのか、どのように対処したら良いかということを書いていただいたら良いのではないかと特に思う。アメリカザリガニについては、2022年にアカミミガメと同時に条件付特定外来生物に指定されている。だからそれを書いていただいて、どのように対処するかということ、環境カレンダーにも書いてもらっているが、やはりその辺が身近なところ、市民が読みたいところかと思う。例えばナガエツルノゲイトウも、しっかり袋に詰めて出すことが今できる。そういうことも書いていただき、特定外来生物はどのような種類がいるかということを書いていただけると、私はありがたい。他に市民に繋がることでは、ごみの出し方などは、それはそれで別にやっているのも難しいと思うが、アメリカザリガニぐらいは書いてもらいたいと思った。

事務局：冒頭の第2章の方で、ナガエツルノゲイトウやアメリカザリガニの駆除について、市民団体と協力して行っている実績について触れているところはある。その点も鑑みて、用語集の中に入るのがふさわしいのかは分からないが、こういったものが外来生物であるという認識と、こういった形で駆除あるいは対応をしてくださいというような、誘導ができるものを加えられればと思う。今のご意見も預らせていただきたい。

委員：この資料の公開手法についての質問。これは冊子版以外にも、おそらくインターネットでPDF版でも公開されると思うが、例えば後ろの資料編のシートについて、これらをインターネットで見て、何か分析に使いたいと思ったときにPDFのままとなかなか分析に使いにくいところがある。例えばExcelでもしデータがあるなら、特に大気や水質のデータについて、別途ホームページでご公開などいただけると、インターネットで見るときに非常に活用がしやすく、市民の方、特に学生や研究者の方なども使いやすいと思う。

事務局：一応公式の文書ということで、改ざんを防ぐ意味で、PDFを市役所の方でも多く使っているところである。ホームページに掲載できるかは検討させていただきたいが、「このデータのExcel版がほしい方はご一報ください」のような対応くらいはできるかもしれないため、検討させていただきたい。

議長：他にご意見ご質問などはあるか。無いようなので、議題②に移る。

②いんざいカーボンニュートラル・チャレンジ2050（案）について

—いんざいカーボンニュートラル・チャレンジ2050（案）について事務局より説明—

議長：ただいまの説明について、ご意見ご質問などがあればお願いします。

委員：概要版の 6 ページに、「デコ活アクション」という言葉があった。よく分からなくてなんだろうと思ったら本編の方に具体的なことが書いてある。市民の皆さんは本編よりもおそらく概要版を手にとることが多い気もするので、デコ活アクションが具体的にどのようなことなのかを概要版に入れたらどうかと思った。例えば概要版 7 ページの図をもう少し小さくするなどして。本編 94 ページのデコ活アクションの解説では、住・食・職などの分野で具体的なアクションが出ている。そういったものがある方が分かりやすいと思う。また、食の分野について、今回「てまえどり」という言葉を私は初めて知った。お店に行くと、商品棚の手前の方が、早く消費してもらわなくてはいけないものになっている。みんな後ろから取りたがるが、それを手前から取っていくことで、食の無駄がなくなっていくということ。今回エコカレンダーの中にも、そのてまえどりというものを入れ込んでいるため、デコ活アクションの中にも含めたらどうかと思った。

事務局：本編などのアクションは、国民運動として環境省のホームページに掲載されているものを記載している。

委員：なるほど。印西市だけの話ではないということか。また、本編の 92 ページ「環境学習の推進」について。この間クリーン推進課と、小学校の方に出前講座に行った。去年も確かやっていると思うので、クリーン推進課も入れてほしい。また本編 88 ページ上から二段目に「燃えるごみ」とあるが、その出前講座に行ったとき、クリーン推進課の方が、「燃えるごみではなく、燃やすごみ。燃やすしかないごみを燃やすのだよ」ということを盛んに言っていた。私もそういえばそうだった。青色の指定ごみ袋にも「燃やすごみ」と書いてある。この言葉をちゃんと使った方が良いと思う。「燃えるごみ」だと、何でも燃えると思ってしまう。あとは本編 86 ページ。一番上の方に、「適切な保全・管理の支援を行います」とあるが、すごく大切な項目である。具体的には何か。担当課に行かなきゃ聞けないのかという感じがする。聞きに行くのは良いが、実際その担当課は具体的な案をちゃんと持っているのか。また、「里山などで伐採された竹木を資源とする有効な活用方法を検討します」とあるが、アイデアはあるのか。それから、印旛中央地区など云々のところで、「開発後もできる限り樹林地を保全できるように働きかけていきます」について、具体的な案はちゃんとあるのか。最後のところ、「耕作放棄地対策として、農地を貸したい方と借りたい方をつなぐ～」というところについて。広報などを読むと、貸したい人と借りたい人という図があるが、実際のところ、担ってくれる人はあまり見つからないのが現状である。それをどのように解決しようとしているのか、そういう案はあるのか。そういうところが知りたい。あとは本編 26 ページ。千葉県と印西市のリサイクル率のグラフについて、一生懸命やっている私達からすると、なぜ千葉県より下がっているのか気になる。スーパーなど、お金やポイントとして還元される場所にリサイクルを出すようになって、市には出さなくなったということなのか。

委員：うちの町内を見ると半分くらいが事業者の方に出している。そういう意味ではそうかもしれない。

委員：ではリサイクル率の件はそのような解釈でいいのか。また、本編 24 ページの年齢構成の推移について。2015 年までは年齢不明の人達がいたが、2020 年はゼロになっているのはなぜか。なぜ今回ゼロになり、今までこんなに何百人もの人が年齢不明だったのか少し気になった。

事務局：デコ活アクションについて、概要版に載せるか、それとも概要版の確認は比較的ホームページで確認される方が多いと思われるため、ホームページで国のデコ活アクションにリンクす

るようにして、そちらからデコ活アクションの詳細を見ていただくなど、概要版はページ数も限られているため、どの程度記載するかは少し検討させていただきたい。

議長：今のデコ活について。確かにおっしゃる通りで、何の略か分からないという意味では唐突感がある。意味は用語解説にも載せていただいているので、米印か何かで、そちらを参照できるように考えていただけると唐突感がなくなるかなと思う。

事務局：用語解説を別のファイルで設けるなど、何かしら分かりやすくはしたい。また、てまえどりについても、デコ活ではないので、どこに入れられるかは検討させていただきたい。環境学習の推進については、クリーン推進課とも相談し、入れられるものは入れたいと思う。また燃えるごみについては、燃やすごみなどに修正をする。

委員：「燃えないごみ」も「燃やさないごみ」に修正してほしい。

事務局：承知した。また、86 ページの取組については、他の課が実施している事業を取りまとめて記載しているというところがあり、今後、里山保全活動などの実施計画などを立てていくが、まだ具体的なものはないものもあるため、今後取組を進めていく中で、具体的な検討をしていきたいと考えている。

委員：ぜひ、環境保全課が中心となって、取組について声掛けをしてほしい。

事務局：耕作放棄地対策についても、農政課に確認してみないと分からないというところもあるため、取組を進めながら周知などをしてもらうよう話をしたいと思う。ごみ排出量のグラフや年齢構成については、公表されている統計資料を掲載しているものなので、なぜ千葉県よりリサイクル率が下がっているのかや、年齢不明がゼロになったのかは今明確にはお答えできないが、分かる範囲で確認したいと思う。

事務局：個人的な感触としてお伝えする。24 ページの年齢構成は、国勢調査からデータの引用があるが、私は入庁してから毎回、国勢調査時に調査員という形で地域を回っている。調査票を渡して書いてそれを回収するというのが今までオーソドックスだったが、最新の国勢調査ではインターネット回答がほとんどで、回答率がかなりクリアになったのではないと思う。不明だった部分が 0%になったのは驚きだが、回答率の方がかなり上がったので、それに伴うパーセンテージの減少があったのではないかと個人的には思う。

委員：なるほど。

委員：以前お願いした、環境推進市民会議で出た意見について載せていただいているのはありがたいが、やはり、「3-4 市民の意識」のところに比べたら、これはたった 1 回だけで、しかも 50 人に満たない市民の結果である。しかし私たちは何回も会議をして、いろいろ話して意見を出しているのに、たったこれだけかという気持ちがどうしてもある。「意見をいただいた中で反映されなかったものは次の通りです」くらいにさせていただかないと、私達も結構言ったのに何も言わなかったみたいである。それで、「各種市民会議において出された意見のうち、今後の検討課題の意見は次の通りです」のように書いていただけたらありがたい。でなければ全部書いてほしい。いろいろ言ったことをすべて。その次が、カーボンニュートラルということであれば、この会議でももう何回も出たが、やはりデータセンターができてどうなるのかというのが一番の関心事だと思う。この資料には出てこないのはもう少し先の話なので仕方ないかもしれないが、今後どうするかということについて、市長の始めの挨拶でもいいが、検討課題であるとか何か入れておかないと、やはり何も考えてないのか、単に数字を作っただけだと、市民としてはそういう印象は強いのではないかなと思う。パブコメでどのよ

うな意見が出てくるかは楽しみだと思うが。やはりそのところを抜きにして印西は語れないと思う。そこを何か入れる工夫をしていただけたらと思う。実際数値が出せないとおっしゃるのは分かるけれども。これだけはっきりしているのに、何か書けないのかなと思った。

委員：委員の意見に関連して。データセンターについて、ジョイフル本田の北側の方は今どんどん建物ができてきているが、非常に無機質で、窓もあまりなく、環境的・景観的にも非常に悪い感じがする。あの辺はどんな手を打っているのか。本編 86 ページに、「印旛中央地区など、開発により既存の緑の減少が予測される場合、開発後もできる限り樹林地を保全できるよう働きかけていきます」とある。印旛中央地区は結構緑の多いところなのでここに挙げているのだろうが、ジョイフル本田の北側の方も非常に景観が悪くなっていると思う。

議長：最初の委員のご意見は、コペルニクス的な展開を図っている印西の環境について、やはりこの中で触れてほしい、触れるべきだというご意見であり、ほとんど皆さん同意できる場所だと思うので、何とか加筆修正というか、ハイライトというか、やっていただけないかと思うが、いかがか。

事務局：市民会議の会議録については、毎回ホームページで公表している。その他、どこまで載せられるかというのは課内でも検討していきたいと思う。

議長：もう一つ大きな話は、この印西全体の環境激変に対する姿勢について。「今後大きな検討課題として認識しています」というぐらいの表現がほしいということで、私も同感だがいかがか。

事務局：データセンターなどの特定事業所については、国からも、エネルギーの排出を自然由来のものにするとか、そういった目標値を達成するように定められており、取組などは、個々の事業者でも公表はしている。そのためどちらかというと中小事業所よりも特定事業所の方が、そういった活動自体は、例えば太陽光発電の設置などは、比較的新規で入ってきた特定事業所の方が進んでいると思う。

議長：そのような個別の話ではなく、いわゆる環境激変に対する、印西市としての姿勢と認識をここに表現してほしいということだと自分は理解しているが、委員の方、そのようなことでよろしいか。今のご説明を縷々してほしいという意味ではないと思う。

事務局：大きな話について申し上げますと、今ジョイフル本田の北側に形成されているデータセンター付近については、市街化調整区域というわけではなく、ニュータウン事業区域ということで、逆に手をつけずに樹木が入ってしまった、自然環境がもともとあったかのような形で残ってしまっていた部分も実際はある。そのため、ニュータウン区域については計画的に自然を残しつつも、何%の緑を残すなどの形で整備されてきた部分と同じような形ではある。今後、里山環境、市街化調整区域については、ある程度印西市では規制がかかっており、それこそ住宅などは連たん制度が対象であれば建つが、企業など、そういったものについて今は建たない状態になっている。こちらに今記載しているような形で保全していくというところは考えているが、開発できる場所とそうでない場所があり、ただその開発していい場所を開発するなどと言うことはできないということをご理解いただきたいと思う。

委員：開発するなということではなく、千葉ニュータウン中央駅の北側、初期にできた電算センターなんかは非常に緑が多くてゆとりのある敷地の中で建物が建っている。ジョイフル本田の北側の方は、基準が変わったのか。

委員：それについては詳しいので後でお話する。とりあえずデータセンターの件を先に片付けておきたい。今の話だと、大きな企業なのでちゃんと自分たちでやっているから印西市は関知し

ないという、そういうふうに捉えられ、それならばそのように書いていただくしかない。

議長：やはりここに印西市の環境行政の意思が反映できないか、すべきでないかということについて、ぜひご検討いただきたいと思う。

事務局：特定事業所については、市域の二酸化炭素の排出に占める割合が非常に大きいため、今後、特定事業者たちと話ができる場を設けるなど、市も一緒に、二酸化炭素の排出削減に向けた取組を進めるため、検討を進めたいと思っている。

委員：そのようなことを記載してほしい。

議長：今仰ったようなことを記載して展開していくというか、そのような対応がほしい。では、先程の景観の話について。

委員：千葉ニュータウン中央駅の北側のオフィス街については、バブル真っ最中の頃、非常に美しく作られた。企業にお金があったから立派なものができた。バブルのときに作った電算センターは非常に良い。しかし最近建てたものはみんな無機質。要するに企業に余裕があったかなかったかが大きな問題である。次、別所の問題について。あの辺は昭和 50 年代ぐらいに一旦宅地開発された。要するに全部がニュータウン事業区域の企業用地及び住宅地として予定されていた場所である。結局売れず、そのままほったらかしになって狐の巣なんかもできてしまった。そのため、私たちの会が、どうせ売れないのであれば生態系を生かしたまちづくりに生かそうということで、企業が来るにしても、しっかり緑を確保して生態系を生かして、緑を残そうと署名運動をした。その頃は UR がニュータウン地区を管轄していたが、UR ももう撤退して、千葉県企業庁も撤退するという時期だった。署名も全国から集まり、取組はテレビでも随分放送された。結局 UR、企業庁、印西市を巻き込んで署名を持っていきどうなったかということ、やはり答えは元の計画通りの開発をするということで、あの頃からちょっと売れ始めたのだと思う。結局ごく一部が私たちの運動によって残って、今ある別所谷津公園と古新田川防災調節池周辺の緑が大分広がった。そもそもあそこは本当に狭い範囲しか残らない予定が 10 ヘクタール残ったので私たちはそれでよしとしなければいけなかったが、その結果 UR とのその時の約束では、5 ヘクタール以上の開発はしないという約束だった。それで緑もしっかり取るという約束だったが結局 UR が企業に売った。その企業からいろんなところに、転売か貸したのかは分からないが細かく分割してしまった。その時その企業がやらなければいけなかったのは、わずか 5%の緑地を確保すればいいというそれだけであった。緑地の確保は、本来ならあれぐらいの大きなところであれば 10%確保とかは当然だと思うが、多分 5%確保でしか決まらなかった。企業は法律に則って企業緑地を確保しているので、もうすでに企業の私有地になってしまったところについてはおっしゃる通り印西市があれこれ言えない。ということで今あんな状況になっている。ただ企業の私有地であっても、今からでもカーボンニュートラルがあるので取り組んでほしいと言えなくはないのではないと思う。里山空間の中に美しくない建物がぼんぼん建ってしまっている。やはり景観条例の面からも、あるいは印西市が、美しい自然と共生するまちを今後もずっと言い続けていくのなら、もっと強く出てもいいのではないかという気はする。

委員：それは建築基準が違うということか。

委員：建築基準は変わっていない。バブル時は非常に企業にお金があって、美しい設計ができた。UR が作ったマンションや団地なども緑がいっぱいだが、民間が建てたところは本当に少なく、大きな敷地の中に駐車場があって木が何本か植わっているだけである。その意味ではや

はり UR が作った都市計画は美しかった。UR はしっかりと空間を取った都市計画をしたが、そのあと民間企業に開発が移ったときにはもう民間企業はやっぱりコストのことしか考えないから、それは資本主義の宿命だと思う。

議長：中々諦めることは難しい。

委員：だから私が言っているのは、印西市は緑と共生するまちなのだから、緑地は 10%以上取ることとか、そこで取れないならよその田んぼを保護するなど、追加するよう意見したことは書いてあるので、それはそれでよしとしなければいけないのかなと思う。仰ることはよく分かるし怒りもとても分かる。

委員：建物がどんどん高くなってきて、どんどん進んでいるから余計身近に感じる。

議長：景観の話が中心になったが、やはりバブル時代にオフィス街ができた頃に比べると、新しいものはどんどん景観が悪くなっているというか、無粋な倉庫群というか、そういう感じになっているのは確かなので、環境保全課の方からアプローチできるかどうかは分からないが、何とか悪化に歯止めをかけてもらえないかと思う。

委員：前にみんなで見学行った時に、室外機がたくさん外に向いていて熱風が来そうだと、とか、大きな建物が建ってこちら側の住民は日陰になってしまいそうと、とか、ここに雪が降ったら滑るだろうなどと、いろいろ思い浮かべられるような状況があった。それに対して、そこに住んでいる人々は、何かしようかと言ってもなかなかやれないような状況がある。そういう中を、やはりこちらの課の方たちが旗を振って、みんなで毎月温度を測りましょうとか、そんなふうにしていかないと、何か事が起こったときに、やはりそうだったじゃないかというようなものを持ってないと言えない。そういうことは、やはり市役所の人たちが先頭に立ってやってもらったほうがやりやすいのではないかと非常に感じている。

議長：河川や大気汚染の調査みたいに、定期的に調査してほしいという話でよろしいか。

委員：はい。

議長：それは一つのご意見として伝えたい。

委員：先ほど申し上げた、当会議での意見の扱いについて。このままでいいが、「詳しくはホームページの会議録をご覧ください」と書いていただけるとありがたい。

委員：グリーンインフラという言葉を知っている人は非常に少ないが、グリーンインフラという言葉の説明が一切ない。どこかにあるのか。どこかにやはり、グリーンインフラとはグリーンインフラストラクチャーの略で、こういう意味で、国も推進しているということなどを、書いた方がいいとは思う。

議長：用語解説に付け加えていただきたい。

事務局：グリーンインフラの用語解説は追加させていただく。

委員：本編 88 ページに「プラスチックごみ等の削減」とあり、これは従来の容器包装プラスチックのことだと思うが、2022 年にプラスチックに係る資源循環の促進などに関する法律が新たにできた。この法律がどんなものを簡単に言うと、今まで容器包装プラスチックだけが法律の対象になっていて、その他のプラスチックは燃やしていたが、それではいけないということで、プラスチック資源化もしくはバイオプラスチックなどにしようという考えが、この法律の内容である。プラスチックが海へ捨てられると、マイクロプラスチックという微小なプラスチックとなり、それを魚が食べる。それを人間が食べることになる。今の現代の人間はまだいいが、子孫に影響が出てくる。プラスチックが入った魚介類を食べると、絶対体に良

くない。この法律を受けて、印西地区でも、今まで、容器包装プラスチックだけを分別していたが、製品プラスチックも回収もしくは資源化することについて、市民に教育した上で、今年の 10 月から実際に回収することを検討していると聞いている。すごく大事な話だが、これが 88 ページ中に一言も書いておらず驚いた。今ごみの問題で一番注目されているプラスチック資源循環について、別項目でもいいし、これの中でもいいが、入れてほしいというのが私の意見である。

事務局：クリーン推進課や組合の方にも確認して、掲載を検討させていただきたい。

委員：パブリックコメントの募集方法について。パブリックコメントは、1 月 15 日から 2 月 5 日までホームページで募集すると書いてあるが、印西市ホームページのトップページに 5 ページぐらいスライドするところがあるが、そこに載せていただいたりすることで、市民への告知活動が少し活性化するのではないかなと思う。今までと同じ方法で準拠されているのかもしれないが、今回カーボンニュートラルという大切な施策のため、ホームページの第 1 ページに載ってもいいかなと思ったので、検討に加えていただければと思う。

事務局：ご提案いただいた件は、広報の方とも相談しながらできるか確認したい。

委員：86 ページの取組など、どんなことをやっているか具体的な方策を出さないで、いつまでもずっとこれを書いておしまいになるような気がする。だから、白書などで毎年、今年度はこんなことをやりましたと書けるような施策をしっかりと推進してほしい。

委員：皆さんにもお配りしているペロブスカイト太陽電池の話について。日本人が開発した技術で、中国や韓国では既に売られており、日本では来年度から本格的に売り出すということなので、これをぜひ印西市も活用してほしい。新しい電池を使ってほしいというのが私の意見である。

事務局：そういった最新の技術動向などについても、取組として市民に対して情報発信し、あとは太陽光発電の導入にあたっては最新技術を取り入れるように、担当課とも話をしていきたいと思う。

議長：他にご意見がなければ、議題③に移る。

③環境基本計画の推進に係る取組の検討（グループワーク）

議長：グループワークに先立ち、質問させていただく。カレンダーをもう配り始めているわけだが、人気度や反応をお聞かせいただければありがたい。

事務局：カレンダーの方は 12 月 15 日から、市内出張所・支所で配布を開始した。1 月の広報を見た方から非常に多くの反応があり、1 週間と立たずに在庫がなくなってしまい、急遽 100 部増刷した。それでも足りないかもしれないという反応があり、非常に高い人気となっていることをご報告させていただく。カレンダーのスタートが 1 月というのが良かったと思われる。在庫を抱えてしまうのも良くないので、必要部数を見ながら刷っている状況である。

—環境基本計画の推進に係る取組の検討（グループワーク）—

議長：それでは時間になったので、グリーンインフラグループから発表をお願いする。

委員：グリーンインフラグループでは、2 年前から、印西市としての決まり事を作りたいということで、いろいろと案は出ていたが、やはり条例という形でグリーンインフラや生物多様性を守っていききたいということで進めていた。その中で市長が変わった。運よく市長とお話する機会があり、条例のお話をして、条例案もお渡しした。そのような形で今年度は活動を終え

た。今後どうするかというのが課題であり、来年度も考えていきたい。

委員：前回の山崎会長のお願いでもあったので、市長との懇談内容と提案した条例案を本日お配りしている。

議長：それではカレンダーグループの発表をお願いします。

委員：無事カレンダーを出版し、多くの方に手に取っていただけてグループメンバー一同嬉しく思う。1月のはじまりのカレンダーの方が多くの市民の方に手に取っていただけることが分かったので、来年度も同様の取組を推進していきたい。他にも、環境白書やいんざいカーボンニュートラル・チャレンジ 2050 などポイントの話もあったので、それも踏まえてエコカレンダーの内容、特に後ろの付録の部分などをアップデートして、多くの市民の方に、環境について考えてもらえるようなものにしていきたい。

委員：カレンダーについて、自分は穴をあけて壁に刺しているが、初めから穴をあけておいてはどうか。

議長：その案もあったが、製本などは全て市役所にさせていただいていることもあり、無しとなった。

委員：壁にかけるとなるともう一回り大きくしてほしい。卓上にするには大きいし壁にかけるとは小さい。あと中身について、立春や夏至など、季節の日付を入れてほしかった。祝日の記載はあるが。

議長：次年度への参考意見としたい。本日の議事はここまでとする。

委員：フードバンク ISS のパンフレットを置かせていただいた。ボランティアを募集しているのでよろしくお願いいたします。また4月の国際交流エコ・スローマラソン印旛 2025 について、皆さんのご参加や、興味のある方へのお声がけなどをお願いしたい。

事務局：印西市の環境に非常に貢献いただき感謝申し上げます。皆さまは、印西市の環境に関わらず他の分野でも、市のためにさまざまな取組をしていただいております、感謝申し上げます。今後とも、引き続き印西市の環境保全にご協力いただければと思う。

(4) その他

―事務局からの連絡事項―

事務局：令和6年度の印西市環境推進会議（市民会議）は本日をもってすべて終了となる。委員の任期は令和7年4月30日までとなるが、任期中の会議の開催についても本日が最後となる。委員の皆様においては、2年間にわたり、お忙しいところ会議へのご出席をいただき、また市の環境施策への貴重なご意見をいただき、改めて御礼を申し上げます。令和7年5月以降の環境推進市民会議については、3月に委員の公募をまた行う。

委員：今の市役所の職員の皆様は本当に理解があり、勉強もしてくださっている。私の方からも御礼を申し上げたい。来年度の第1回会議は、次のいんざい環境フェスタについてとなると思うので、次も参加される方は内容を考えてくると良いと思う。

(5) 閉 会

令和6年度第5回印西市環境推進会議（市民会議）の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

令和7年3月7日

印西市環境推進市民会議 委員 小山 尚子

印西市環境推進市民会議 委員 國武 悠人
